





○オバマ米大統領の広島訪問は概ね好感をもって迎えられたように思われる。広島スピーチ冒頭の「71年前、雲一つない明るい朝、空から死が落ちてきて、世界は変わった(death fell from the sky and the world was changed)」との表現は無責任ではないか、原爆資料館など現地で受けた感想が全く述べられていないではないか、などの批判もあるようであるが、それは“ないものねだり”と云うものであろう。それより、日本人には決して真似のできないセンスの良さを感じたのは、例の『折り鶴』をさりげなく準備されていたことであつた。気配りの利く側近の仕事と云うことがあつたのかも知れないが、それとても全く非難される筋合いのものではないはずである。ごく限られた時間をこれだけ有効に活用されたオバマ大統領には敬意を表したい。それに比べて、写真で横に立っておられる御仁は、この僅かの時間の段取りのために、どれほどの時間を浪費されたことであろうか。

2016年5月31日 文責：瀬尾和大